

J.LEAGUE™ NEWS



© J.LEAGUE PHOTOS

サンフレッチェ広島が初の年間優勝

FW佐藤寿人(広島)が最優秀選手賞を受賞。大分トリニータが「2012 J1昇格プレーオフ」を制す

2012シーズンのJ1リーグ戦が12月1日に終了し、サンフレッチェ広島の初の年間優勝で幕を閉じた。11月24日の第33節、首位の広島はセレッソ大阪に4-1と快勝。一方、2位のベガルタ仙台はアルビレックス新潟に0-1と敗れ、両チームの勝点差が1試合を残して4と開いたため、1節を残して優勝が決まった。12月3日に開催された「2012 Jリーグアウォーズ」では、得点王となって広島の優勝に貢献したFW佐藤寿人が最優秀選手賞を受賞した。また、今シーズン初めて行われた「2012 J1昇格プレーオフ」は大分トリニータが制し、J2リーグ戦優勝のヴァンフォーレ甲府、同2位の湘南ベルマーレとともに、来シーズンの昇格を決めた。(2~5ページに関連記事)

J.LEAGUE™ TOP PARTNERS

Calbee

Canon

KONAMI

AiDEM

Coca-Cola

McDonald's

JCB

J.LEAGUE™ 100 YEAR
VISION PARTNER

朝日新聞

J.LEAGUE™
FAIRPLAY PARTNER

東京エレクトロン

LEAGUE CUP SPONSOR

ヤマザキナビスコ

SUPER CUP SPONSOR

FUJIXEROX

J.LEAGUE™ OFFICIAL
EQUIPMENT PARTNER

adidas

J.LEAGUE™
OFFICIAL SUPPLIER

Johnson & Johnson

J.LEAGUE™ OFFICIAL
BROADCASTING PARTNER

スカパー!

SPORTS PROMOTION
PARTNER

TOYO

J.LEAGUE™ OFFICIAL
TICKETING PARTNER

ぴあ



優勝を決めたC大阪戦後、選手らに胴上げされる森保監督。Jリーグで選手経験がある日本人監督としては、初の年間優勝という快挙

「団結」の広島が栄冠獲得。 仙台、鳥栖も躍進

サンフレッチェ広島は第33節、持ち前の攻撃サッカーを披露して勝利をつかみ、ホームスタジアムの広島ビッグアーチで歓喜の瞬間を迎えた。MF高萩洋次郎が17分に口火を切り、50分までに4点をリード。セレッソ大阪の反撃を1点に抑えて4-1と快勝し、勝点を61へ伸ばした。一方、ユアテックススタジアム仙台では、ベガルタ仙台がアルビレックス新潟に

先制を許し、追い付くことができずに試合が終了。勝点は57にとどまり、最終節の前に両チームの勝点差は4と開いたため、広島の優勝、仙台の2位が確定した。広島は第18節で今シーズン初の首位に立つと、仙台とデッドヒートを展開しつつ、第25節からトップの座を守り抜いた。

Jリーグがスタートした1993年以降、1994シーズンのサントリーシリーズにおける優勝はあるものの、J1リーグ戦の年間優勝、そしてJリーグヤマザキナビスコカップ、天皇杯全日本サッカー選手権大会と合わせた国内三大タイトルの獲得は初めて。今シーズンから広島の指揮を執る森保一監督は「サンフレッチェを支えてくれる方々全ての思いが、ここに詰まっているという感慨が湧いた」と、Jリーグ杯（優勝銀皿）を掲げた瞬間の感激を振り返った。クラブが開幕前に掲げたスローガンは「団結」。「選手が僕の足りない部分を補ってくれたり、現場のスタッフやフロントスタッフが、チームがうまく回るように支えてくれた結果」と森保監督が語るように、クラブ一丸となつての栄冠獲得だった。



得点王のタイトルも獲得した広島の佐藤（中央）

順位表

順位	チーム	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失差
1	サンフレッチェ広島	64	34	19	7	8	63	34	+29
2	ベガルタ仙台	57	34	15	12	7	59	43	+16
3	浦和レッズ	55	34	15	10	9	47	42	+5
4	横浜F・マリノス	53	34	13	14	7	44	33	+11
5	サガン鳥栖	53	34	15	8	11	48	39	+9
6	柏レイソル	52	34	15	7	12	57	52	+5
7	名古屋グランパス	52	34	15	7	12	46	47	-1
8	川崎フロンターレ	50	34	14	8	12	51	50	+1
9	清水エスパルス	49	34	14	7	13	39	40	-1
10	FC東京	48	34	14	6	14	47	44	+3
11	鹿島アントラーズ	46	34	12	10	12	50	43	+7
12	ジュビロ磐田	46	34	13	7	14	57	53	+4
13	大宮アルディージャ	44	34	11	11	12	38	45	-7
14	セレッソ大阪	42	34	11	9	14	47	53	-6
15	アルビレックス新潟	40	34	10	10	14	29	34	-5
16	ヴィッセル神戸	39	34	11	6	17	41	50	-9
17	ガンバ大阪	38	34	9	11	14	67	65	+2
18	コンサドーレ札幌	14	34	4	2	28	25	88	-63

得点ランキング上位

順位	選手	所属	得点数	順位	選手	所属	得点数
1	佐藤 寿人	広島	22	5	大前 元紀	清水	13
2	豊田 陽平	鳥栖	19	5	前田 遼一	磐田	13
3	赤嶺 真吾	仙台	14	9	興梠 慎三	鹿島	11
3	レアンドロ	G大阪	14	9	佐藤 晃大	G大阪	11
5	ウイilson	仙台	13	9	柿谷 曜一朗	C大阪	11
5	工藤 壮人	柏	13				



© J.LEAGUE PHOTOS

強烈なシュートでC大阪戦の先制点を決める広島の高萩



仙台は第33節の新潟戦で敗れて惜しくも優勝は逃したものの、東日本大震災の被災地を勇気づけた

また、FW佐藤寿人が22点をマークしてJ1での自己最多を更新し、初の得点王に輝いた。チームは「TOYOTA プレゼンツ FIFAクラブワールドカップ ジャパン 2012」への開催国枠による出場権も獲得した。

惜しくも優勝を逃した仙台の手倉森 誠監督も「優勝を最後まで争った広島に『おめでとう』と言いたい」とライバルを祝福。仙台もシーズンを通じて常に1~2位をキープし、昨シーズンの4位から順位を上げた戦いぶりは称賛に値する。初のAFCチャンピオンズリーグ(ACL)出場権も獲得し、手倉森監督は「タフなACLで戦えて、またたくましくなる。その先

に、タイトルが取れるようなチームになれる」と、新たな戦いを見据えた。

リーグ戦の成績によって来シーズンのACLの出場権をつかんだのは、広島、仙台、そして3位となった浦和レッズの3チーム。なお、ACLには第92回天皇杯全日本サッカー選手権大会の優勝チームを加え、日本から4チームが出場する。

一方、残留争いも最後まで予断を許さず、第27節で16位以下が確定したコンサドーレ札幌(18位)に続き、最終節でヴィッセル神戸が16位、ガンバ大阪が17位に。この3チームが、来シーズンはJ2で戦うことになった。



© J.LEAGUE PHOTOS

浦和は最終節で5年ぶりのACL出場権獲得。中央は鈴木



横浜FMの小野を追う鳥栖の藤田。チームはそれぞれ4位、5位



© J.LEAGUE PHOTOS

新潟は最終節で残留が確定。先制点を決めた坪内がガッツポーズ



© J.LEAGUE PHOTOS

中山(札幌)は第33節で45歳2カ月1日の最年長出場記録



2012年11月23日 13:00キックオフ 国立競技場

大分トリニータ 1 0 ジェフユナイテッド千葉

「2012 J1昇格プレーオフ」決勝が11月23日に行われ、大分トリニータが1-0でジェフユナイテッド千葉に勝利した。この結果、大分はJ2リーグ戦優勝のヴァンフォーレ甲府、同2位の湘南ベルマーレとともに、来シーズンはJ1リーグへ昇格する。

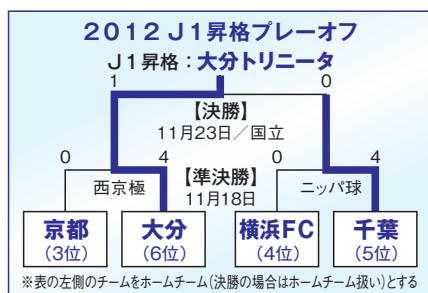
J2で5位の千葉と同6位の大分が顔を合わせた決勝は、千葉がボールをキープする時

間が長く、優勢に試合を進めた。得点こそ奪えなかったものの、90分を終えて引き分けの場合は、年間順位の優位性を確保するため、年間順位が上位のクラブを勝者とする規定により、千葉が昇格へ近づいた。

ところが、均衡を破ったのは大分。後半の途中から出場したFW林 丈統が、86分に値千金

の決勝点。ともに4シーズンぶりの昇格を懸けた戦いは、大分に軍配が上がった。「選手には諦めなくていいと、ほぼ毎日、話していた」と大分の田坂和昭監督。監督就任からの2シーズンを振り返り、「選手が自分の力をチームに還元しようという姿勢があり、非常にたくましくなった」と、選手たちの成長を認めた。

なお、大分はJリーグから受けた融資の返済という条件付きでJ1クラブライセンス交付を受け、10月12日に返済が完了したため、昇格への態勢が整っていた。



© J.LEAGUE PHOTOS

大分に値千金の決勝点をもたらしたのは、昨シーズンまで千葉に所属した林(中央)。GKと1対1となり、落ち着いて決めた



© J.LEAGUE PHOTOS

リーグ戦6位で2012 J1昇格プレーオフに臨んだ大分。京都、千葉という上位陣を連破し、4シーズンぶりの昇格を勝ち取った

最優秀選手賞に広島佐藤

ベストヤングプレーヤー賞は柴崎(鹿島)

Jリーグの記念すべき20回目のシーズンを締めくくったのは、やはり20回目のJリーグアウォーズ。2012シーズンで活躍した選手・監督、クラブ、審判などの功績をたたえる表彰式「2012 Jリーグアウォーズ」が、12月3日に神奈川県横浜アリーナで開催された。華やかな雰囲気にも包まれた場内では、ステージ上でスポットライトを浴びた今シーズンのJリーグの「顔」を、詰め掛けたファン・サポーターらが祝福した。



©J.LEAGUE PHOTOS

最優秀選手賞の副賞の一つ、ゴールデンボールトロフィーを持つ佐藤



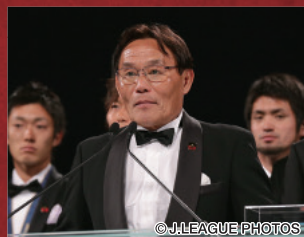
©J.LEAGUE PHOTOS

J1優勝クラブの広島の選手・監督がレッドカーペットを通して入場



©J.LEAGUE PHOTOS

最優秀監督賞の森保監督。監督経験1年目で見事な采配を振った



©J.LEAGUE PHOTOS

冒頭のあいさつで「変革の1年」となった今シーズンを振り返った大東チェアマン

佐藤が四つの個人賞を獲得

コンサドーレ札幌、ガンバ大阪の順で始まった選手入場は、17番目のベガルタ仙台へと続き、いよいよ今シーズンのJ1リーグ戦を制したサンフレッチェ広島の登場。選手・監督が中央レッドカーペットを通り、アリーナ1階のセンターステージへ。四方から盛大な拍手で迎えられ、優勝の感激を新たにしました。

J1優勝クラブ表彰に続いて、大東和美Jリーグチェアマンが登場。今シーズンを振り返った後、「今日は、2012シーズンにJリーグで活躍した、栄えある賞の受賞者が決定します。お集まりいただいた皆さまと、受賞者の来シーズンのさらなる活躍を期待し、彼らを心からたたえたい」とあいさつ。各賞が次々と発表されていった。

表彰も終盤に差し掛かり、ステージ上には優秀選手賞の受賞者が整列。この中からベストイレブンの名が読み上げられ、さらに最後を飾る最優秀選手賞の発表へ。ベストイレブンの投票結果を参考に、大東チェア

マンらが委員となる選考委員会が投票を行った結果、栄冠は広島のFW佐藤寿人の頭上に輝いた。佐藤はこれに先立ち、フェアプレー個人賞、得点王、ベストイレブンの表彰も受けており、一人で四つの個人賞獲得は、Jリーグアウォーズの歴史で初の快挙となった。

キャプテンとして広島の優勝に大きく貢献したエースストライカーは「チームが優勝したからこそ、この賞がいただけた。サンフレッチェを心から愛してくれる全ての皆さまのおかげ」とスピーチ。さらに両親、兄の勇人(ジェフユナイテッド千葉)、妻子へ、感謝の言葉をささげた。

ベストイレブンに広島から5人

ベストイレブンには、佐藤をはじめ、広島から最多の5人が名を連ねた。昨シーズンまでベストイレブンに選ばれた広島の選手は、FW高木琢也(1994年)、佐藤(2005年)、DF槇野智章(10年、現 浦和レッズ)の3人で、GK西川周作、DF水本裕貴、MFの青山

敏弘、高萩洋次郎は、いずれも初受賞の感激を味わった。

広島の5選手をはじめ、ベストイレブンは9人が受賞1~2回というフレッシュな顔触れで、DF駒野友一(ジュビロ磐田)、FWのウィルソン(仙台)、豊田陽平(サガン鳥栖)を含め、7人が初受賞となった。一方、MF遠藤保仁(G大阪)は自身の持つ最多記録を更新する10年連続10回目の栄誉。9年連続9回目のDF田中 マルクス闘莉王(名古屋グランパス)が、これに続いた。

最優秀監督賞は、初めて監督としてチームの指揮を執った広島の森保 一監督。「この素晴らしい賞をいただけたのも、いろいろな方の支えがあってこそ」と感謝を表した。

ベストヤングプレーヤー賞は、過去に同賞および09年までの新人王を受賞した選手は対象外となる。今シーズン、この一生に一度の栄誉を手にしたのは、鹿島アントラーズのMF柴崎 岳。2012 Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝のMVPにも選ばれた20歳は、世界で活躍する外国の若手選手の名を挙げ、



ベストイレブンに輝いた選手たち。前列左から豊田、佐藤、レアンドロ ドミンゲス、ウイルソン。中列左から遠藤、高萩、青山。後列左から駒野、水本、田中 マルクス・閻莉王、西川

「2012 Jリーグアウォーズ」受賞一覧 (丸数字は受賞回数)

最優秀選手賞	佐藤 寿人(広島、初)
(GK)	西川 周作(広島、初)
(DF)	駒野 友一(磐田、初)／田中 マルクス・閻莉王(名古屋、⑨)／水本 裕貴(広島、初)
ベストイレブン	レアンドロ ドミンゲス(柏、②)／遠藤 保仁(G大阪、⑩)／青山 敏弘(広島、初)／高萩 洋次郎(広島、初)
(MF)	
(FW)	ウイルソン(仙台、初)／佐藤 寿人(広島、②)／豊田 陽平(鳥栖、初)
得点王	佐藤 寿人(広島、初)
ベストヤングプレーヤー賞	柴崎 岳(鹿島)
フェアプレー賞 高円宮杯	サンフレッチェ広島 ②
フェアプレー賞(J1)	川崎フロンターレ 初
フェアプレー個人賞	佐藤 寿人(広島、②)
最優秀監督賞	森保 一(広島、初)
最優秀主審賞	西村 雄一 ④
最優秀副審賞	相楽 亨 ⑤
Jリーグベストピッチ賞	日産スタジアム ④／東北電力ビッグスワンスタジアム ③／アウトソーシングスタジアム日本平 ⑥／キンチョウスタジアム 初
功労選手賞	藤田 俊哉／田中 誠
最優秀育成クラブ賞	コンサドーレ札幌 初

※功労賞、功労審判員賞は該当者なし

歴代の最優秀選手賞受賞者

- 1993 三浦 知良(ヴェルディ川崎)
- 1994 ヘレイラ(ヴェルディ川崎)
- 1995 ストイコビッチ(名古屋グランパスエイト)
- 1996 ジョルジーニョ(鹿島アントラーズ)
- 1997 ドゥンガ(ジュビロ磐田)
- 1998 中山 雅史(ジュビロ磐田)
- 1999 アレックス(清水エスパルス)※
- 2000 中村 俊輔(横浜F・マリノス)
- 2001 藤田 俊哉(ジュビロ磐田)
- 2002 高原 直泰(ジュビロ磐田)
- 2003 エメルソン(浦和レッズ)
- 2004 中澤 佑二(横浜F・マリノス)
- 2005 アラウージョ(ガンバ大阪)
- 2006 田中 マルクス・閻莉王(浦和レッズ)
- 2007 ボンテ(浦和レッズ)
- 2008 マルキーニョス(鹿島アントラーズ)
- 2009 小笠原 満男(鹿島アントラーズ)
- 2010 梶崎 正剛(名古屋グランパス)
- 2011 レアンドロ・ドミンゲス(柏レイソル)
- 2012 佐藤 寿人(サンフレッチェ広島)

※現在は三都主 アレサンドロ(名古屋グランパス)として登録



ベストヤングプレーヤー賞は柴崎。なでしこジャパンの岩渕(右)がプレゼンターを務めた



フェアプレー賞 高円宮杯が日本サッカー協会の大仁邦彌会長(右)から広島に手渡された



最優秀主審賞の西村氏(左)と同副審賞の相楽氏。ともに4年連続の受賞となった



功労選手賞の藤田氏(左)と田中氏は、日本代表や磐田などで活躍した



最優秀育成クラブ賞は札幌。正賞のブック型楯を持つ矢萩竹美 代表取締役社長



「投票で選んでいただき、とても光栄」とJ2 Most Exciting Playerの山口

「彼らに一步でも近づき、日本を代表する選手になっていかなければ、世界とは戦えないと思う」と、さらなる高みを見据えた。

フェアプレーで優勝

フェアプレー賞(J1)は広島、川崎フロンターレの2クラブで、反則ポイントが最も少なかった広島がフェアプレー賞 高円宮杯を授けられた。「フェアプレーの精神を持って、優勝という結果を手に入れることができたことを、非常に誇りに思う」と森保監督。優勝したクラブが同賞を受賞したのは、初めてのことだった。

最優秀主審賞の西村雄一、最優秀副審賞の相楽 亨の両氏は、ともに4年連続の受賞。それぞれ「リーグを成功させるために、一丸となって努力した審判員全ての仲間の頑張りを、とても誇りに思う」(西村氏)、「一つでも多く、素晴らしい試合を演出するという勝利を目指し、(審判員が)チームとして努力していきたい」(相楽氏)とスピーチした。

Jリーグベストピッチ賞は四つのスタジアム

のうち、キンチョウスタジアムが初受賞。磐田での活躍が長かった藤田俊哉、田中 誠の両氏が、功労選手賞の表彰を受けた。最優秀育成クラブ賞は、札幌が受賞した。

また、オープニングの前に行われたサポー

ターステージショーでは、J2リーグの各クラブから一人ずつ選ばれた「J2 Exciting 22」のうち、当日の来場者の投票によって山口智(千葉)が「J2 Most Exciting Player」に選ばれた。



2階フロアでは東日本大震災のJリーグ復興支援活動を紹介する写真を展示



Jリーグ杯(優勝銀盃)、Jリーグアウォーズで受賞者に贈られる賞品なども展示



Jリーグ百年構想パートナーの朝日新聞社が当日の様子を伝える号外を配布



キャノンステーション2012で集まったメッセージ写真パネル



コカ・コーラのSMILE CARAVANを背景に記念撮影